

漁況海況予報事業浅海定線調査

(陸 奥 湾)

(要 約)

加藤徳雄・田村眞通・浜田勝雄ほか試験船「なつどまり」乗組員

この調査は、陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得ることを目的に実施しているものである。

本年度は継続20年目の調査年次であった。なお、詳細については、別途「漁況海況予報事業浅海定線調査事業報告書（陸奥湾）」により報告する。

調 査 内 容

- (1) 調査点：図1に示したとおり、湾内でstn. 1～6定点、湾口部でstn. A、Bの2定点。
- (2) 回 数：平成3年（1991年）中に1月を除き毎月1回、計11回。
- (3) 項 目：気象、水色、透明度、水温、塩分、溶存酸素、調査水深は、水温と塩分については各stn. とも0m、5m、10m、10m以深から底層（海底上2m）までの間は概ね10m毎、溶存酸素についてはstn. 2、4の5m、20m底層及びstn. 1、3、5、6の底層のみ

調 査 結 果

1991年における、代表的な調査点の透明度、水温、塩分、溶存酸素の変化範囲を表1に示した。

透明度などの海象、海況項目の概要は次のとおりであった。

- (1) 水色は、4月及び11月に東湾で6を観測したが、この他は3～5の範囲であった。
- (2) 透明度の年変化範囲は、調査全体でみて、8m（8月）～23m（12月）であった。
全体的に、2月～3月、6月～8月及び10月～11月に低下した。
- (3) 水温の年変化範囲は、調査全体でみて、最低が東湾で4℃台（3月）となり最高が表層で、22.30℃、中層で22.36℃（9月）となった。

平年にくらべると（平年は'72～'90の値の平均）6月～7月にかけて、特に表層～中層が高めとなり、8月には全湾で逆に低めに転じ、その傾向が11月まで続き12月に入ってから高めとなった。

- (4) 塩分の年変化範囲は、調査全体でみて、表層で31.67（4月）～33.84（12月）、中層で32.47（8月）～33.90（4月）、底層で33.23（6月）～34.23（9月）であった。

平年にくらべると（平年は'72～'90の観測値の平均）西湾の一部で5月に平年より高めとなったが、6月以降11月まで全湾的に低塩傾向が持続し、12月になってはじめて高塩傾向になった。

これは7月及び8月が長雨で平年より約2倍の降雨があったことを反映したものとみられる。

- (5) 溶存酸素は、9月に湾中部で4.08mg/ℓ（飽和度49.98%）と低下した。また、海況自動観測の結果では10月9日2.4mg/ℓ（飽和度29%）を記録したが、'90、9月記録の1.4mg/ℓ（飽

和度 17.5 %) ほどではなく、過去同様、特有な低下傾向を示した。

また、10月の調査時には、低酸素域は消滅していた。

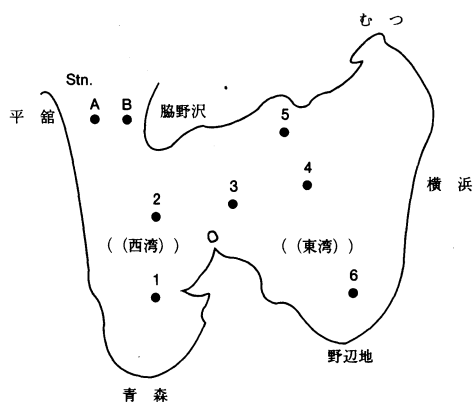


図1 調査点

表1 水温、塩分、溶存酸素の変化範囲（最低、最高値の出現状況）

項目		西湾側 (Stn.1)		湾央部 (Stn.3)		東湾側 (Stn.4)	
		最低 (起時) [*]	最高 (起時)	最低 (起時)	最高 (起時)	最低 (起時)	最高 (起時)
透明度 (m)		8.0 (8)	17.0 (12)	10.0 (3)	16.0 (9)	8.5 (3)	17.0 (5)(6)
水温 (℃)	0m	6.00 (3)	21.80 (9)	4.30 (3)	21.90 (9)	4.30 (3)	22.00 (9)
	20m	5.87 (3)	22.10 (9)	5.05 (3)	21.65 (9)	4.27 (3)	21.19 (9)
	底層	5.56 (3)	19.67 (10)	4.88 (3)	19.02 (10)	4.65 (3)	18.84 (10)
塩分 (Psu)	0m	32.362 (8)	33.678 (12)	32.569 (8)	33.647 (12)	32.287 (8)	33.549 (12)
	20m	33.051 (8)	33.831 (9)	32.844 (8)	33.609 (9)	32.466 (8)	33.546 (12)
	底層	33.513 (3)	34.019 (9)	33.310 (2)	33.791 (8)	33.230 (6)	33.580 (9)
溶存酸素 (mg/ℓ)	0m					7.31 (8)	10.37 (3)
	20m					7.29 (7)	10.25 (4)
	底層	6.93 (10)	9.81 (3)	5.25 (9)	9.87 (3)	4.08 (9)	9.99 (3)

※空白欄は非観測、起時は出現した月を示す。